

新製品開発におけるフロントエンドローディング

‘製品価値の限界と超越’

— 新製品開発の創世 —

(株) ジョンケルコンサルティング 落合以臣

A Front-End Loading in New Product Development

“Product value limits and transcendence”

-The Genesis of new product development-

Shigemi Ochiai, Jonquil Consulting Inc.

Keywords : SNS・人間環境・情報・製品価値・テーマ創造・製品に乗せる・超越

製品価値の創造というブーム

「製品価値の創造」というタイトルがブームになったのは、おおよそ 10 年前、2007 年～2009 年の間であったでしょうか。当時の製品価値に関する考え方は、製品自身の血流にテーマが浸み込み、製品の価値となって現れるとききました。それだけ、テーマの創造に力を注いでいた証拠ともいえます。しかしながら、人と人との社会的な繋がりを維持・促進する様々な機能を提供するということが掲げた会員制のオンラインサービスである SNS が、人間を取り巻く様々な環境に上手く入り込んだために、生活自体が大きく変貌しました。IT 用語辞典を参照すれば、確かに、友人・知人間のコミュニケーションを円滑にする手段や場を提供したり、趣味や嗜好、居住地域、出身校、あるいは「友人の友人」といった共通点や繋がりを通じて新たな人間関係を構築する場を提供してくれる大変便利なツールといえます。この便利さが、いつの間にか思考能力を支配し、Web サイトや専用のスマートフォンアプリなどを通して入手する内容が、すべてであるかのような錯覚をしてしまう。言い換えますと、自身は主体的に動いていると思いがら、結局は日本人が一番好む「皆さんそうしています。ああそう」という渦の中に巻き込まれているわけです。誰かが SNS を通して、あの製品は素晴らしいという情報を発信すれば、瞬間に地球の裏まで届くわけです。それとは反対な情報も同様になるわけです。ある意味では、極めて住みづらい世の中になったともいえるでしょう。

製品価値の限界

こうした状況の中で、製品価値をどのように表現していくのか、どのように作っていくのか、今までにない時代に突入したと言っても過言ではないでしょう。では、どのような方法で、製品価値を表現したらよいのでしょうか。それは、その製品の原点に戻り、製品以上の価値を造ってきたものを一度整理することから始めてはどうでしょうかという問いかけです。もう少し簡略化して述べますと、製品の中に不必要なものが多すぎることです。例えばランドリーを見た場合、いかに汚れを落とし、きれいにすることが目的のはずですが、そこにアンドロイドのソフトを読み込ませるようなソフト・機能を入れ、スマホと連携させて、スマホで管理させる方法は、本当に便利でしょうか。ほとんど使わないソフト・機能が多すぎるのではないのでしょうか。

製品価値の創造

こうしたことに鑑みますと、一度、製品そのものを整理し、5 年先、10 年先を見据えたテーマを創造し、そのテーマをしっかりと製品に乗せて行くことが、本当の意味での製品価値を超越することになるのではないのでしょうか。やはり、人間力を基本に置いたテーマ創造は、何よりも勝ると思います。

2020 年に向けて

師走の月に入り、2019 年も終わりにになりました。今年は、新天皇陛下の即位という奇跡的な年でもありましたが、一方では大型台風による甚大な被害も受けました。しかしながら、わが国の力は衰えず、益々発展して行くと思います。この流れは、2020 年へと引き継がれるはずで。

2020 年は、皆様にとりまして、良い年になることを祈願したいと思います。今年 1 年のご愛読に感謝いたします。どうぞ、良いお年をお迎えください。誠にありがとうございました。